

子供も大人も幸せを共有できるスポーツ・文化芸術活動の実現を目指して… 「沼田市地域クラブ活動推進協議会」で充実した意見交換

沼田市では、「**学校・家庭・地域の連携・協働により、子供も大人も幸せを共有できるスポーツ・文化芸術活動の場を創造し、関わる全ての人々の人間的な成長と地域の活性化**」を目指して、昨年の11月に**沼田市地域クラブ活動推進協議会**を設置しました。

6月26日(水)には今年度初めての協議会を開催し、「**沼田市立中学校部活動地域展開推進計画**」の概要やこれまでの取組、学校部活動の状況(部活動指導員の活動、部員数や顧問配置など)を確認したうえで、今年度の方向性などについて、委員をお世話になっている学識経験者、スポーツ・文化芸術活動、学校関係者の代表から様々なご意見をいただきました。



委員

学識経験者(大学講師)
市スポーツ協会副会長
市スポーツ少年団本部長
総合型地域クラブ活動代表(2名)
市文化協会会長
市小中学校長会協議会長
市中学校体育連盟会長
市中学校体育連盟理事長
市PTA連合会会長
市教育委員会教育部長

※協議会には、教育長、事務局職員9名も出席しました。

以下に、ご意見の一部を紹介します。

・今後のさらなる推進に向けて…

- 「学校には設置されていない活動であっても、受け皿を広げられるとよい」
- 「吹奏楽の講師を学校に派遣したり、美術関係の教室を開催したりするなど、文化芸術活動においても、地域展開を推進していきたい」
- 「地域で活動する大人たちは高齢化してきているが、若い人たちは文化を共に楽しむ仲間と考えており、部活動の地域展開は、世代を超え、一緒になって取り組めるよいチャンスだと思っている」
- 「子供の頃にしてもらったことを、今度は大人として子供たちに返していく。そして、これがよい連鎖になれば素晴らしい」



・今後、解決を目指す課題として…

- 「現在取り組んでいる部活動改革は、最終的にどのようなゴールを目指していくのか」
- 「地域の関係団体が実施する活動について、情報をどのように発信・共有していくか」
- 「学校の部活動を休日だけ移行することは難しい課題だ」
- 「人間形成を大切にしたい活動を推進できるとよい」



Q & A ※令和6年度第1回沼田市地域クラブ活動推進協議会の協議より

Q 現在取り組んでいる部活動改革は、最終的にどのようなゴールを目指していくのか。

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する 総合的なガイドライン(概要)	
<p>○ 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。</p> <p>○ 令和4年度に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成30年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効率的、効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を提示。</p> <p>○ 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能な環境を一体的に整備。地域の実情に応じた生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。</p> <p>※ Iは中学生を主な対象とし、高校生も原則適用。II～IVは公立中学校の生徒を主な対象とし、私立中学校は実情に応じて取り組むことが望ましい。</p>	
<p>I 学校部活動</p> <p>教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す。</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の部活動への関与について、法令等に基づき業務改善や勤務管理 ・ 部活動指導員や外部指導者を確保 ・ 心身の健康管理・事故防止の徹底、体調・ハラスメントの根絶の徹底 ・ 週当たり2日以上¹の休養日の設定(平日1日、週末1日) ・ 部活動に強制的に加入させることがないようにする ・ 地方公共団体等は、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力の下、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進める 	<p>III 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備</p> <p>新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進 ・ 平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進 ・ ①市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体を取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める <p>※ 地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保</p> <p>・ 令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す</p> <p>・ 都道府県及び市区町村は、方針・取組内容、スケジュール等を周知</p>
<p>II 新たな地域クラブ活動</p> <p>学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実 ・ 地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備 ・ 指導者資格等による高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンクの整備、意欲ある教師等の円滑な兼職就業 ・ 競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に合わせたプログラムの確保 ・ 休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定 ・ 公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減・円滑な利用促進 ・ 困難家庭への支援 	<p>IV 大会等の在り方の見直し</p> <p>学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた大会等の運営の在り方を示す。</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるよう見直し ・ ※日本中体連は令和5年度から大会への参加を承認。その着実な実施 ・ できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保 ・ 全国大会の在り方の見直し(開催回数の精選、複数の活動を経験したい生徒等のニーズに対応した機会を設ける等)

- A [スポーツ庁・文化庁が示している考え方]
- ・ **まずは休日における地域の環境整備を着実に推進**
 - ・ **平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進**
 - ・ **段階的な体制の整備を進める**
 - ・ **地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す**

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン(概要)」(令和4年12月 スポーツ庁・文化庁)

Q 「部活動指導員」には、どのような役割がありますか。

A 部活動指導員は、部活動の顧問として技術的な指導を行うとともに、担当教諭等と日常的に業務内容や生徒の様子、事故が発生した場合の対応等について情報交換を行う等の連携を十分に図っています。

主な業務としては、実技指導、安全・障害予防に関する知識・技能の指導、学校外での活動(大会・練習試合等)の引率、用具・施設の点検・管理、部活動の管理運営(会計管理等)、保護者等への連絡、年間・月間指導計画の作成、生徒指導に係る対応、事故が発生した場合の現場対応等となっています。



参考 教育部活

勝利至上ではなく、成長至上主義を追求する

4月19日(金)に開催した「沼田市・先生の日」幼小中学校教職員全体研修会の教育講演会に、令和5年全国高校野球選手権大会で慶應義塾高等学校を107年ぶりの優勝に導いた**森林貴彦監督**をお招きし、「Enjoy Baseball(エンジョイ・ベースボール)を通じたチーム創り・人創り」と題するお話の中から、個人やチームの成長を第一に考えることの大切さについて学びました。また、森林先生が「致知」(2023年12月号)で語っていた以下の言葉も、学びのヒントになります。

「**スポーツで勝利を目指すのは当たり前なんですけど、勝利至上になってしまうと、手段を選ばず勝てばいい、勝った者が偉くて、負けたら何も残らない**になってしまう。

しかし、スポーツは本来そういうものではない。

勝利至上ではなく、『成長至上主義』を追求していきたい

「**生徒たちのプレーヤーとしての成長も含めて、人としての成長を追求していきたい**」

「**人として成長し、プレーヤーとして成長し、そしてチームが一体感を持って成長すれば、自ずと結果はついてくる**」

